

トピックス…④

配合飼料価格が低下する中で、
何故、乳価値上げが必要なのか？

配合飼料価格が下落する中で、3月からの生産者乳価の値上げが必要な酪農現場の状況を正確に伝えるため、本会は1月7日からホームページに説明資料「配合飼料価格が低下する中で、何故、乳価値上げが必要なのか？」を掲載している。

**酪農経営の健全化が急務
流通飼料値下げでも
都府県酪農はギリギリの経営**

説明資料ではまず、酪農経営の健全化が急務であると指摘している。過去3年間のわが国の酪農経営は、流通飼料価格の高騰など生産コストの増加で経営収支が常に赤字となり、酪農家の所得や労賃は急速に減少。特に、流通飼料の依存度が高い都府県では平成19年10月以降、生乳出荷戸数が7%（前年同月比）を超えて減り続けて酪農生産基盤は弱体化しており、これまでにない速度で酪農家の廃業と生乳生産の大幅な減少が同時進行している。このままでは国内で完全自給が求められる飲用原料乳の安定供給は極めて困難となることから、酪農経営の健全化が急務だと強調している。

しかし、昨年後半からの国際的な金融危機の影響で、穀物価格や原油価格、海上運賃が下落し、急速な円高も重なって、乳価値上げの大きな要因だった配合飼料価格は今後、低下していくことが予測される。

そこで、説明資料では、配合飼料価格が低下しても、価格急騰前に比べて依然として高い水準にあることや、輸出国の生産面積の急減で輸入乾牧草の価格が高騰していることから、「予定されている乳価の値上げが行われ、かつ現在の穀物価格の国際的な動向が配合飼料価格にそのまま反映されたとしても、都府県の平均的な酪農経営の経営収支は辛うじて均衡する状況だ」と指摘している。

さらに、今回の穀物高騰の背景の1つとして、経済新興国での酪農畜産業の発展という構造的な要因があることから、今後の国際的な穀物の需給と価格の動向は極めて不透明であるとしている。

**生乳安定供給には乳牛の補充と
飼料自給率向上への緊急投資が必要**

一方、生産コスト増による経営収支の赤字で、酪農家の所得や労賃が減少してきた結果、乳用牛や機械、施設の更新が大幅に遅れた。特に、都府県では過去2年間、北海道から導入される乳用雌牛の後継牛が大幅に減少し、今後の生乳生産を担う若齢牛の数は近年にない低水準となっている。生乳の安定的な供給を図る上でも乳牛の更新、補充は不可欠であり、そのためには相当なコストの増加が生じることになる。

また、今回の穀物価格の急騰に伴う酪農経営の悪化の背景には、特に都府県での自給飼料基盤の脆弱性と輸入飼料への依存という構造的な問題がある。

都府県での粗飼料自給率の向上を図り、生乳を安定供給していくためには、自給飼料生産に利用できる農地の追加的な確保、飼料作物生産用の機械・施設などへの新たな緊急投資が必要になる。

このため、資料では、将来を含めた生乳の安定供給には、乳牛の補充や自給飼料生産に係る機械・施設などへの投資が必要であるとした上で、「こうした緊急投資は、穀物の国際的な価格変動の影響を受けない安定的な国内での生乳供給につながるだけでなく、生乳生産コスト削減という形で、中長期的な利益を消費者に還元することができる」と指摘、3月からの生産者乳価の値上げが必要な理由を説明している。

なお、説明資料の詳細なデータなどは下記の本会のホームページに掲載している。

<http://www.dairy.co.jp/archive/200901houdou.pdf>